



津奈木中
学校便り
No. 2

夢実現・挑戦

令和5年5月26日
津奈木町立津奈木中学校
校長 高橋 裕二

「軌跡」～伝統を引継ぎ、新時代を創る体育大会～

5月20日(土)、前日までの雨天で天候が心配されましたが、絶好のグランドコンディションで、体育大会を開催できました。

当日は、津奈木町長 山田豊隆 様をはじめ、町議会議員や民生委員、保護司、駐在所、園や学校関係者など、多くのご来賓の皆様にご来賓の皆様にお越しいただいて開催することができました。



【赤白両団の応援団員】

新型コロナウイルス感染症の影響で、これまで学校生活や学校行事が制限されてきました。生徒の皆さんに、「できる限り活躍の場を与えたい」「家族の方と一緒に昼食を食べてもらいたい」との思いで、時間は短かったですが、午後まで実施しました。

生徒達は厳しい練習にも関わらず、実行委員長楠本くんを中心に一生懸命取り組んできました。また、応援団は、赤団船場さんと白団新立くんが、団長としてリーダーシップを発揮して、団をまとめてくれました。パネルやスローガンも3年生を中心に、短い期間で立派な作品を完成してくれました。



【3年男子100m】

閉会式では、生徒会長林くんが、「勝ち負けに関係なく、このメンバーで悔いが残らない最高の体育大会ができて良かった」という振り返りで体育大会を締めくくってくれました。

津奈木町教育委員会 塩山一之 教育長は、「生徒一人一人が一生懸命真剣に走り、また、集団行動も応援する姿もとても良かった」と感想を述べられました。

生徒達は、競技も演舞も練習の成果を発揮し、家族や地域の皆様に元気を与えてくれ、新たな津奈木中学校の伝統を創ってくれました。



【全校ダンス～津奈木小唄～】

6月は「心の絆を深める月間」

6月は、いじめを許さない学校・学級を目指して様々な取り組みを行います。さて、世の中には、誰一人として自分と同じ考えや気持ちをもった人はいません。また、学校はいろいろな個性や能力がある人達の集団です。したがって、集団生活では、自分の思い通りにはなかなか進みません。困ったことや嫌なことが、時々あるかもしれません。

人権教育の目標は、「自分の大切さとともに、他の人の大切さを認めること」で、そして、そのことが「具体的な態度や行動に現れること」です。



【体育大会・集団行動】

私が20代の頃、当時の教頭先生が全校集会で、次の3つのことを言われました。

- ①自分を大切にする
- ②友だちを大切にする
- ③物を大切にする

この3つを意識して行動すると、学校が楽しくなるということでした。私からも、皆さんに意識してほしいことを、3つお願いします。

- ①自分がされて嫌なことは友達にもしない。
- ②一人一人の違いや個性など多様性を認める。
- ③相手の立場になって、相手の考えや気持ちを想像して、話したり行動したりする。

最後に、嫌なことや困ったこと、悩み等があったら、必ず家族の方や先生に相談をお願いします。

5月2日の夕方、津奈木中で教頭の頃、数学を教えていた女子生徒二人が校長室に訪ねて来ました。卒業アルバムを見ながら、当時の生徒達の話題で盛り上がりました。私は授業中、数学はもちろんのこと、生活指導も含め、できるまで厳しく指導していました。再テストは、合格するまで何度も行いました。しかし、二人は「授業をまじめに受けていたので大丈夫でした」と言っていました。社会人となって成長した姿の生徒と話ができるのは、教師の喜びや生きがいになります。

さて、学校では先生方の働き方改革を推進しているところですが、現在、教師を目指す若者が減少し、危機的な状況です。このような中、訪ねてきた生徒の同級生二人が、今年4月芦北管内の小学校に新規採用され、とても喜んでいました。

生徒達が「将来、学校の先生になりたい」と思える魅力ある中学校にしていきたいと思います。